吃音を治すのではなく理解者を増やす

ありのままの社会を!!

吃音＝個性

一人でも多く知ってほしい 吃音新聞

発行 2023年8月

吃音症とは何か?

吃音とは、話し言葉が滑らかに出ない発話障害の一つです。吃音に特徴的な非流暢には次の3つがあります。

①連発（音のくり返し）
例：「か・か・からす」など。

②伸発（引き伸ばし）
例：「かーらす」など。

③難発（最初の言葉が出づらい）
例：「・・・からす」など。

言葉を滑らかに話せない吃音という発話障がいのある人が日本に約120万人。100人に1人の割合で存在し、目に見えない障がいの為、まだまだ吃音への理解者が少ないのが現状です。

主な原因は何か?

吃音が起きる原因のほとんどは、その子の性質であり生まれ持った体質であると言われています。保護者の育て方が原因ではないのです。

発達性吃音
「体質的要因」「発達的要因」「環境的要因」が互いに影響し合って発症するもの。

獲得性吃音
「神経学的障害」「脳損傷」「心的なストレス」によって発症するもの。

などがあるそうです。

学校や社会にのぞむ!! 合理的配慮!!とは?

合理的配慮とは、障がいのある方々の人権が障がいのない方々と同じ様に保障されるとともに、障害特性や困り事に合わせておこなわれる配慮のことです。

2016年4月に施行されたのが「障害者差別解消法」です。これは、行政・学校・企業などに合理的配慮を可能な限り提供する事を求められます。

例えば学校では日直や発表、英検の面接などが配慮されます。社会人になっても合理的配慮は受けられますが理解が少なく面接の段階で不採用になったり、採用されても吃音を治す様に指導を受けたりと、まだまだ生きづらい社会なのかと思いました。

一人でも多く吃音を知ってもらい理解者が増えてくれると自分を責める事が減り自己肯定感が高くなると思いました。

◆逆にしてはダメ!!な事◆

①話し方を真似たりからかったりしない。
②話し方のアドバイスっぽくない。（ゆっくり、落ちついて など）しない。
③早く!!と、せかさない。

【兄への質問】

・どんな吃音がありますか。

—ぼくは連発があり、ひどい時は難発の症状があります。

・吃音で不便を感じた事は、ありますか。

—日直や発表は言葉が出づらく出来ないです。だけど周りに恵まれていたので吃音を理解してもらい皆んなの優しさで助けてもらえました。

・からかわれた事はありますか。

—話し方を真似されて悲しい思をした経験があります。

・その時はどのような対処をしましたか。

—担任の先生も理解してくれたので、すぐに注意と様子を見てくれました。真似をした友達も改めて吃音を理解してくれました。

ぼくの兄も吃音症です。

兄の体験と母の想いをインタビュー

【母の想い】

◆吃音は立派な個性◆

学校生活の時は保護者が受けやすく安心して見守れますが社会人になると吃音が就職の妨げになるのではないか、自分が本当にやりたい仕事に就けないのではないかと不安をあげればキリが無いのですが、吃音は立派な個性だと思うので悲観的にならず自分の進みたい道に向って チャレンジしてもらいたいです。

息子の場合、吃音を治そうとすると逆効果なので、吃音とうまく付き合って言葉がつまっても堂々と声に出して自分を表現してほしいですね。

◆編集後期◆

各地区には発話障がいをサポートする場所（ことばの教室など）があります。兄は通級学校生活を送っていません。充実した生活を送れているのも周囲の先生や友達のサポートがあったからと思います。兄と関わった先生が「色々な個性が集まっているのがクラス」「個性を大事にする気持ちを伝え、個性を受け入れられる温い学級を作りたい」とおっしゃっていました。

一人でも多く：この目に見えない障がいの様なものなのかを知ってもらい全ての人が温かい心で受け入れてくれたらと思います。